

# いのちの言の葉

「かけがえのないいのちを救え」（総合的な学習の時間）

富山市立上滝中学校 対象：1～3学年生徒

富山県教育委員会 平成20年度いのちの教育支援事業 平成20年10月1日実施

## 「今日は人生で一度しかない」

前富山県警山岳警備隊の梶田さんに、大自然のすばらしさ、いのちの大切さについて、警備隊時代の様々な経験をもとにお話していただきました。



### 梶田 正 先生のプロフィール

1947年大山町生まれ

警察学校を卒業後、山岳警備隊員に任命、上市警察署、大沢野警察署、警察本部で勤務し、41年間富山県警察山岳警備隊にかかわる。

遊びのいのちと仕事のいのちは少し違うと思っていたけれど、梶田さんのおかげで遊びのいのちと仕事のいのちはいっしょということが分かり、一つのいのちだから大切にしようと思いました。

今日のお話で一番印象に残ったのは、自分のいのちは自分のものだけど、そのいのちがなくなると悲しむ人がいるということです。これからは自分だけでなく、他人のいのちも大切にしたいです。

遭難した人を、いのちをかけて助ける山岳警備隊の人々がすごいと感じました。足場の悪い中で安全かつ迅速に救助しなければならないのは、すごく大変なことだと思いました。

#### 【内容】

- ① 山の魅力
  - ・大自然の素晴らしさ
  - ・達成感・充実感
  - ・誰にでもできるスポーツ
  - ・健全な精神を育む
  - ・体力の増強
  - ・自分との闘い
- ② 41年間の山岳警備隊勤務から得たもの
- ③ 自分が救助活動の中で思う「いのち」とは
  - ・かけがえのない～世界にひとつ
  - ・落とすと拾えない
  - ・自分だけのものでない
  - ・遊びの時も仕事の時も同じ
  - ・先祖からいただき未来を育む

仕事をするのは大変だけど、少しの楽しみや喜びもあることが分かりました。山岳警備隊という名前だけ聞くと、カッコいいイメージしかないけど、本当に危険な仕事なんだなと思いました。

「今日は一度しかない」という言葉が一番心に残りました。私はいつも「明日でいいや」とすぐ思ってしまうけど、いつどんなことがあっても後悔しないように過ごしていこうと思いました。

